

# 民俗博物館だより

Vol.35 No.1  
2008. 12. 25



矢田坐久志玉比古神社の綱掛祭 (2006.1.8)

## 目次

国際博物館の日記念講演会要旨 「時空を超えて、歴史的民家保存の意義と方法 —大和民俗公園の未来を考える—」	窪寺 茂	1
マキハダづくりを追って (下)	福島 俊弘	3
民俗博物館だより目録 (1~100号)		5
みんなく春夏秋冬 —平成19年度の活動他—		11

## 「国際博物館の日」記念講演要旨

『時空を越えて、歴史的民家保存の意義と方法論—大和民俗公園の未来を考える—』

窪寺 茂

今回、奈良県立民俗博物館から、民博の将来について、とりわけ屋外施設として県内各地より移築されている民家建築を、今後どのように活用して行けばよいかといった点について考えるための講演依頼があった。この移築された民家建築は、文化財建造物としての役割、博物館施設としての役割、そして公園施設としての役割を担っている。民家建築は人が居住する機能を持った建築であり、常に生業と一体となっている存在であるものの、移築に際してその本来の役割、すなわち人が居住する役割は終結している。したがって、施設としての活用には、それ相応の工夫が求められることは言うまでもない。

さて、「大和民俗公園」の民家集落は、四つのゾーンからなる全体構想に基づき配置計画がされている。当初の計画どおりの民家移築の遂行は果たしきれていないものの、正面入口から奥に向かい、「町屋集落」「国中集落」「宇陀・東山集落」「吉野集落」として、公園敷地の地形を利用しつつ各集落のゾーン化が行われている。この全体計画は良く考えられている。表現は適切でないかもしれないが、正面入口から奥に進むと、

県内の北部から南部にかつて建っていた民家建築を実際に見ることができる。この各民家建築は、県内地域固有の特徴を良く持ったものであり、近年大きく変貌した県内地域の現状からは、ほぼ知り得なくなっている民家建築の様相を私たちは見て学習し、楽しむことができる。

しかしながら、この施設が博物館の屋外施設でもあるといった点を考慮すれば、単に移築された民家を見せるだけでは十分ではなく、さらに積極的な活用の展開を図る必要があるだろう。そのための手法の一つとして、民家としての建築文化と民俗文化の双方の内容を、各建物を通じて知らしめる方法を考案すべきであろう。これを実現させるための材料には事欠かないと、私は考えている。この点を指摘しよう。まず、



窪寺 茂氏

建築文化について言うならば、民家移築の際に、各建物とも建築史的研究手法を用いた調査が実行されている。誌面数の都合からここでは詳しくは述べないが、各建築とも、建物が完成した時からのちの改造の様子が、各戸の歴史の変遷と合わせて調査されているほか、当時の建築技術やその工法などを把握究明するための調査などが行われている。これらの詳細な調査は、各民家の建築的側面に関わる文化の実態を把握するためのものであり、その成果内容は来館者に積極的に伝えられるべきである。さらに言うならば、四つのゾーンに分かれて建つ各建物は、それぞれ固有の様相を持っている。したがって、これを相互比較することは、各地域の固有性を明白にすることでもあり、その試みは、同時に博物館における研究活動面に大いに寄与するに違いない。

つぎに民俗文化の側面について触れる。この博物館の収蔵品のうちの一部が現在館内に常設展示されている。ここでは、奈良盆地の稲作、大和高原の茶業、吉野山地の林業について、1970年代頃の大幅な機械化が進む以前の作業の様相と、その工程で使われた用具などが展示されており、当時の県内各地の衣食住、すなわち生業に基づく人々の生活の様子を、私たちは知ることができる。この展示内容は非常に充実しており、「もの」を通じて当時の生活様相を目で

楽しむことができる。では、来館者はこれをどのくらい理解できているであろうか。その理解度は世代の違いにより大きく異なっていよう。社会のあり様がより変化する今後を考えると、過去の民俗文化をよりわかりやすく解説する方法が求められるであろう。

その有効な方法とは、館内の展示内容と関連付けることを念頭に置いた民家施設の利用にあるのではないだろうか。建築文化と民俗文化とに共通するキーワードとして「ものづくり」がある。ものを作り上げる実際の方法、さまざまな場面を、屋外施設である民家及びその周辺を使用して来館者に見てもらう工夫を、今後も継続して欲しい。博物館の役割の一つとして、「もの」をとおして、人間社会を、近代文明を考える場を提供することがあるように私には思われる。(本講演要旨は、講演内容を踏まえて筆者が大幅に再構成したものである。)

(奈良文化財研究所建造物室長・本館運営協議会委員)



移築民家 (旧吉川家住宅)

(2008. 2)

## マキハダづくりを追って (下)

天理市立北中学校夜間学級 (夜間中学) 教員 福島俊弘

## 7 生産地の分布

マキハダについて調査された数少ない資料の中に、榊原貴士「特集；瀬戸内の楨皮船」(『あるくみるきく』日本観光文化研究所 1988年5月所収)がある。

そこに書かれている記録を参考にしながら筆者が行った調査について、略記する。

## (1) 青森

青森駅の西側地域は製材所や貯木場など木材に関連する地域であった。その沖館地域に3軒の工場があった。『青森商工名鑑1964』(青森商工会議所発行)によると、青森<sup>ヒバ</sup>肌工業/副田兼吉(従業員25人)・楡肌/天内喜一郎(従業員3人)・木皮製火なわ/岩見常夫、岩見忠吉(従業員合計8人)とある。同1973年版には開設年が、青森<sup>マ</sup>楡肌工業会社は「戦前」、岩見忠吉は昭和22年(1947)と記載されている。

天内喜一郎さんに聞き取りをした。副田さんのヒカワ工場で働いた後、40才くらいで『天内楡肌工場』を作って独立し、1964年頃まで操業していた。津軽半島から機関車で運ばれてきたヒバの皮を加工しヒカワ(マキハダ)を作った。製造過程の特徴としては、しっかり乾燥させて、水にさらすことはない。室は、皮を入れる所が2段になっていて鉄板の扉が付いている。<sup>な</sup>縋う仕事には、女性10から15人を雇っていた。中腰の作業で、足で台をおさえながら縋っていた。

## (2) 輪島

『あるくみるきく』には、穴水と書かれているが輪島の間違いであろう。

輪島の『能登楡皮工業所』は、前田伊之助さんが、1942年(S17)に会社を作り1946年(S21)から1986年(S61)まで操業している。前田さんの父は、4才の時若狭の小浜から輪島に木の皮を求めて移ってきた。輪島では、「マアテ」というアスナロの木を使用している。製材所から皮を持ち帰って海岸に干し、1度雨に打たせてから縦に割れるくらいまで乾燥させてホイロで乾燥させる。

煉瓦を積んだホイロが2つあり、鉄製の扉を上から降ろして蓋をする形で、鉄の棒2本を敷いた上にかごを2つずつ2段に乗せる。そのかごの中に幅5cmくらいに割った皮を縦に入れて、下からおがくずで発火寸前まで燻す。製縄工が最盛期には25、6人いて打毛した

皮を縋って製品化していた。販路は、室蘭・函館・小樽・留萌など北海道、酒田・能代・新潟の船具屋さんに送っていた。夕張炭鉱の坑道用にも閉山するまで送っていた。1990年に仕事を終えた。北陸地方には他に、松任や津幡に同業者があった。

## (3) 金沢

金沢市<sup>かないわ</sup>金石に『加賀楡皮製作所』があった。金石は、金沢市内から海岸線に延びた「北陸鉄道」が1971年までであったが、その鉄道を利用してアテの皮を輪島の前田さんから入っていた。

海岸を埋め尽くすくらいに皮を天日干しした。製品は、極細(1cm)・並細・並太・極太(3cm)の4種類を作っていた。縄の色で製品の質を判断していた。赤茶は安く黄色は高い値段が付いた。

女性10人男性3人が働いていた。銚子や北海道の小樽、夕張に送っていた。1970年にやめた。鉄道の廃止の影響も大きいと思われる。

## (4) 伊勢

伊勢市にある『吉川まきはだや』は1978(S53)年頃廃業しているが、4代にわたって続けられてきた。勢田川の河口に位置し、工場の目の前の川から海まで約1kmである。楡の皮でも潮風に当たって年輪が細かい木を選んで縋った。室は、皮を束ねたものを3尺6寸×2尺のセイロに入れて蒸していた。途中で、焦げ具合を見ながら裏返していた。製品は、鳥羽や浜島、大湊の造船所や船具店に卸していた。3代目の仲蔵さんの頃には同業者が近くに2、3軒あった。後期には桜井から皮の仕入れもしたという。

## (5) 尾鷲

『尾鷲市史』下巻(1971年)の「統制下の工業」の項に、「木造船に必要な<sup>マキハダ</sup>捲架工業は、尾鷲町の特色あるもので、昭和二年伊藤捲架工場が創設された。良質の捲架で名声が高く、戦後は韓国にも輸出したほどで、現在もわずかであるが操業している。」とある。この捲架工場は、3代目の伊藤道浩さんが1971(S46)年頃まで操業をしていた。初代は、高野山出身の宇之助さんが1921(T10)年頃に坂場町の北川の西側で始めた。紀勢線工事をしていた朝鮮人が、工事が終わってから捲架の職人として仕事をしていた。尾鷲捲架工業所桜井工場が1960(S35)年頃まであって、3人が働いていた。

## (6) 高野山

高野山のマキハダは、桧から作られる「ひなわ」もあるが、高野槇の木から作られる「まきなわ」がある。高野槇による生産はこの地域に限られていた。高野山の摩尼の里と呼ばれる、西ヶ峰・南・林の地区で生産されていた。

小学生用副読本『わたしたちの高野町』には、「コウヤマキとヒノキの皮からつくるまきなわと、ひなわが特産物でした。これは、むらにとってはたいせつな家内工業で、多くの人が従事していました。まきなわもひなわも水もれなどを防ぐのに用いられ、船などに多く使われました。製品はかたにかついで、山ごえに九度山まで運ばれたものです。」とあり、子どもたちに伝えられている。

『和歌山県地域文化緊急調査事業調査書』(和歌山県発行 2001年)には、「天日で乾かし、焙炉ほいろで更に乾燥させ、木槌で叩いて材料を作り、弾力性のある柔らかい縄に仕上げる」と製造過程を記している。

縄繙い仕事をしてきた上岡幾子さんによると、土の穴を掘った焙炉小屋で引き粉をくすばらせて、皮をバリバリになるまで乾かしたらしい。縄繙いは1970年ころまでしていたという。

## (7) 広島

瀬戸内海の島・大崎上島の明石地区で江戸時代から生産されていた記録が残る。江戸時代に浅野藩が鑑札42枚を発行しマキハダの生産を制限していた。明治以降は税金(年20銭)を納めることで生産出来るようになっていた。大崎上島は、瀬戸内海の海上交通の要所であり、造船業も盛んな所であった。最盛期は昭和初期から戦前で全国の7割を占めていたと言われている。戦後の最盛期の1965年5月には『広島県マキハダ協同組合』を32の業者によって結成されているが、しばらくして負債超過で解散している。

大崎上島へ送られた皮の産地は桜井が中心で、戦前は桜井の他に岐阜や大分からも入れていた。広島では皮の半製品を桜井から仕入れていたので、金銭面の折合いに苦勞していたようだ。

最後の組合長だった土井文明フサン ウェンサン インチョン モツボさんの話によると、戦中の販路として朝鮮半島の釜山・元山・仁川・木浦や中国の大連へかなりの量を送ってきた、という。広島の販売方法で特徴的な事として、『マキハダ船』の存在がある。10隻あまりの自家用船に船釘など船具用品と一緒にマキハダを積み、瀬戸内、九州を2、3か月かけて回っていた。

## (8) 韓国

韓国でも日本と同じように木造船はほとんどなくなってしまっている。従って、マキハダの需要は日本と同じくほとんどない。戦時中に桜井で従事していた人が戦後帰国して生産を始めている。釜山近郊の影島ヨンドンで数軒営んでいた。現在は、韓国南部の海沿いの島である南海ナムで1軒だけが生産を続けている。『南海テックル』(テックルはマキハダのこと)は、島の南部の龍沼里ヨンジリにあり25年くらい前までは15人ほどの女性が縄を編んでいた。干し皮を桜井から仕入れていて、電気式の室で乾燥をしていた。地元の人に聞くと、「まきはた」という日本語的表現でマキハダのことを理解できる人もいた。日本、とりわけ桜井との強いつながりが想像される。

## 8. おわりに

8年位前に『マキハダ商』の表札がかかる桜井の福土さん宅を訪問した。それ以後、マキハダを探して全国を歩いてきた。韓国へも出かけた。数年を経て、まだ、断片的ではあるが枠組みは見えてきたように思っている。

造船産業の大変化の時期が30、40年も前にあって調査が難しくなりつつあるのは事実であるが、従事されていた人たちにも話が聞けたことは喜びである。また、「すでに灰になってしまったか」と思っていた道具類や書類も少しは残されていた。

マキハダも『国宝』や『重要文化財』に指定されたものと同じように私たちの「宝物」だという思いで記録し記憶する調査研究を続けていきたい。

※本稿では、「朝鮮人」とは、朝鮮半島出身者の総称として使用した

※前号『マキハダづくりを追って(上)』1頁右の写真キャプションに誤りがありました。正しくは「マキハダ 上/桧製・下/高野槇製」です。お詫びして訂正いたします。



線路の土手に干された桧の皮 (1970年代)

# 奈良県立民俗博物館だより目録 (1~100号)

通巻No.	記事名	執筆者
1	開館にあたって	川内 一郎
1	奈良県立民俗博物館の展示	芳井 敬郎
1	収蔵資料の紹介 (1) -収穫の用具と儀礼-	松崎 憲三
1	奈良県の民俗行事 (1) 正月迎え	浦西 勉
1	第1回体験学習講座と民俗講座	
2	奈良県立民俗博物館とその環境 (民俗公園)	
2	民俗博物館の環境づくり	倉窪 孝
2	来館者の声 奈良県立民俗博物館を見て 他館学芸員からのたより	石川 博幸
2	民俗博物館へ行って 小学生の作文から	
2	収蔵資料の紹介 (2) -冬の仕事と保存食-	松崎 憲三 浦西 勉
2	奈良県の民俗行事 (2) カギヒキ	松崎 憲三
2	体験学習講座・民俗講座	
3	奈良県立民俗博物館とその環境 (民俗公園) 民家の移築について	今西 良男
3	民俗公園の小動物	川瀬 浩
3	来館者の声 小学生の作文から	
3	収蔵資料の紹介 (3) -水田耕作の用具-	大宮 守人
3	奈良県の民俗行事 (3) だけのほり	浦西 勉
3	体験学習講座と民俗講座	
4	地方博物館を考える (1)	
4	地域における民俗博物館の役割	加藤 有次
4	郷土博物館における民俗資料の収集について	大島 暁雄
4	奈良県の民俗行事 (4) オショウライ迎え	奥野 義雄
4	収蔵資料の紹介 (4) 灌漑	大宮 守人
4	体験学習講座と民俗講座	
4	(フィールドノート) 大和の念仏講	奥野 義雄
4	博物館の利用状況 昭和49年11月~50年6月	西久保俊輔
5	開館一周年記念 特別テーマ展によせて	川内 一郎
5	大和の薬と行商 -特別テーマ展-	芳井 敬郎 浦西 勉
5	テーマ展出品民俗資料リスト	
5	写真で見る特別テーマ展	
5	来館者の声-小学生の作文から-	
5	奈良県の民俗行事 (5) おはき築き	松崎 憲三
5	収蔵資料の紹介 (5) 収穫と米の選別	大宮 守人
5	(フィールドノート) 近世以前の薬	奥野 義雄
5	体験学習講座と民俗講座	
6	地方博物館を考える (2) 博物館活動を振り返って	大宮 守人
6	地方博物館を考える (2) 小学生がみた博物館展示	芳井 敬郎
6	(フィールドノート) 丸薬製法の変遷	芳井 敬郎
6	奈良県の民俗行事 (6) トンド	浦西 勉
6	大和まじない資料 (1)	松崎 憲三
6	博物館事業報告 (昭和49年11月~50年12月) -開館一年の歩み-	西久保俊輔
6	寄贈民俗資料分類目録 (昭和49年11月~50年12月)	
6	大和の民家 (1) プロローグ	今西 良男
6	収蔵資料の紹介 (6) 藁の利用	松崎 憲三
6	体験学習講座と民俗講座	
7	地方博物館を考える (3) 教育普及活動を振り返って	大宮 守人
7	体験学習講座に参加して	木村 勇子
7	奈良県の民俗行事 (7) 彼岸会 -先祖のまつり-	奥野 義雄
7	大和の民家 (2) 大和に残る町並と町屋	今西 良男
7	収蔵資料の紹介 (7) 吉野林業技術の概観 (1)	芳井 敬郎
7	アンケートの分析より	吉岡 豊
8	地方博物館を考える (4) 社会教育と展示をめぐって	松崎 憲三
8	奈良県の民俗行事 (8) サビラケ・サナブリ	浦西 勉
8	大和の民家 (3) 町家 -その平面構造-	松田 敏行
8	収蔵資料の紹介 (8) 吉野林業技術の概観 (2)	芳井 敬郎
8	移動展示について	奥野 義雄
9	特別テーマ展示 灌漑と雨乞について	川内 一郎
9	灌漑と雨乞 火タバリ -雨乞の一方法-	松崎 憲三
9	灌漑と雨乞 灌漑用具の概観	大宮 守人
9	灌漑と雨乞 灌漑用水車の利用形態	芳井 敬郎
9	灌漑と雨乞 水利慣行 -水争い-	奥野 義雄
9	灌漑と雨乞 飲み水 -水源から棚元まで-	浦西 勉
9	大和の民家 (4) 町家 -その細部意匠-	今西 良男
9	大和の大師伝説	林 宏
9	民俗公園短信	倉窪 孝
10	郷土博物館・資料館における民具の収集について	木下 忠
10	奈良県の民俗行事 (9) 報恩講	奥野 義雄
10	地方博物館を考える (5) 展示と博物館活動と	松崎 憲三
10	地方博物館を考える (5) 大和の景観の概要	倉窪 孝
10	大和の民家 (5) 住居とまじない -大和まじない資料-	松崎 憲三
10	収蔵資料の紹介 (9) 吉野林業技術の概観 (3)	芳井 敬郎
10	博物館事業報告 (昭和51年1月~12月)	広沢 修
10	寄贈民俗資料分類目録 (昭和51年1月~12月)	
10	寄贈図書一覧 (1) (昭和49年10月~51年12月末)	
11	地方博物館を考える (6) 博物館資料としての民家について	大宮 守人
11	奈良県の民俗行事 (10) 涅槃会	浦西 勉
11	大和の民家 (6) 国中の農家 -その概観-	今西 良男
11	収蔵資料の紹介 (10) 大和茶業史略 -笠間製茶形成とあゆみ-	奥野 義雄
11	郷土博物館・資料館における民具の収集について (2)	木下 忠
11	親と子の民俗教室について	芳井 敬郎
12	地方博物館を考える (7) 博物館における体験学習	芳井 敬郎
12	大和の民俗行事 (11) ノガミ	松崎 憲三
12	大和の民家 (7) 国中の農家 -平面構造-	今西 良男
12	収蔵資料の紹介 (11) 製茶法とその用具	奥野 義雄
12	(フィールドノート) 口吉野の産習俗 -大淀町の場合-	浦西 勉
12	(フィールドノート) 橿田川上流地域の運搬具 -マタとオイネダイ-	松崎 憲三
12	オートスライドの製作について	大宮 守人
13	特別テーマ展示 念仏信仰について -六斎念仏と百万遍念仏を中心に-	奥野 義雄
13	近畿のおもかる石	大島 建彦
13	大和の民家 (8) 国中の農家 -大和棟-	松田 敏行

13	博物館の利用状況 (昭和49年度~52年度年8月)	吉岡 豊	22	寄贈民俗資料分類目録 (昭和54年1月~55年1月まで)	
14	考古学と民俗学の接点	渡辺 誠	22	寄贈図書目録 (5) (昭和53年8月~54年11月まで)	
14	大和の民俗行事 (12) 御田植祭	大宮 守人	22	民俗資料調査抄報 (6) 大和のオコナイ	浦西 勉
14	収蔵資料の紹介 (12) トチ・カシ・ホソの実の採集・調製用具	浦西 勉	23	三名郷の自然伝承	林 宏
14	(フィールドノート) 大和緋の文様と技法	芳井 敬郎	23	物質文化 (3) 御田祭 (御田植祭)の模擬農具	大宮 守人
14	-割込法-		23	大和の民俗行事 (19) 文殊会	奥野 義雄
14	博物館事業報告 (昭和52年1月~12月)	山下 勝	23	(フィールドノート) 村落における神仏習合の行事について-オコナイ行事を中心に-	浦西 勉
14	寄贈民俗資料分類目録 (昭和52年1月~12月)		23	民俗資料調査抄報 (7) 住いにみる白	奥野 義雄
14	寄贈図書資料目録 (2)			良県吉野郡の各種白の所有の場合-	
15	作図について	植田 啓司	23	民俗資料収集に協力をお願い	
15	収蔵資料の紹介 (13) ノガミの蛇と絵馬	松崎 憲三	24	民俗学雑感 -特別テーマ展・テーマ展示にみる民俗学と生活科学の接点-	村井 昭一
15	旧萩原家住宅の紹介	今西 良男	24	特別テーマ展特集 農耕儀礼 -御田祭と野神祭-	大宮 守人
16	地方博物館を考える (8) 博物館教育について	芳井 敬郎	24	大和の民俗行事 (20) ハッサク (八朔)	浦西 勉
16	大和の民俗行事 (13) 虫送り -笠間川流域を中心に-	浦西 勉	24	民俗資料調査抄報 (8) 蛇穴の汁かけ祭り	徳田 陽子
16	(フィールドノート) カタギヤ	大宮 守人	25	地方博物館を考える (10) 体験学習の現状と課題	佐野 正隆
16	(フィールドノート) 『多聞院日記』にみる民俗知識とその周辺	奥野 義雄	25	テーマ展 「住いと衣の用具」展の紹介から	奥野 義雄
16	丑の刻詣り -大和まじない資料-	松崎 憲三	25	物質文化 (4) はきもの-奈良県立民俗博物館収蔵品紹介-	浦西 勉
16	寄贈図書資料目録 (3)		25	大和の民俗行事 (21) 秋祭 -獅子舞と田楽-	奥野 義雄
17	特別テーマ展特集 機織る車弥呼	太田 英蔵	25	民俗資料調査抄報 (9) 御田祭の祭具	大宮 守人
17	特別テーマ展特集 箆の製作技術	芳井 敬郎	25	民俗資料調査抄報 (10) 熊野市五郷町周辺の田まつり	徳田 陽子
17	大和の民家 (9) 國中周辺の農家	今西 良男	26	民俗学カルチャーサロンをおえて	村井 昭一
17	公園短信 (2)	倉窪 孝	26	テーマ展特集 台所の民俗展 -棚元の水とかまどの火-	浦西 勉
18	大和の民家 (10) 大和の民家 -分布と平面の分類-	長谷川晋平	26	物質文化 (5) 炊事用具	徳田 陽子
18	大和の民俗行事 (14) 弓打ちとケイチン	浦西 勉	26	大和の民俗行事 (22) 修正会 -村落の正月行事「おこない」-	浦西 勉
18	(フィールドノート) 雨乞いと人形	松崎 憲三	26	博物館事業報告 (昭和55年4月~56年3月)	西岡 利男
18	博物館事業報告 (昭和53年1月~12月)	吉岡 豊	26	寄贈民俗資料分類目録 (昭和55年2月~56年2月まで)	
18	寄贈民俗資料分類目録 (昭和53年1月~12月)		26	寄贈図書目録 (6) (昭和54年10月~55年10月まで)	
18	寄贈図書資料目録 (4) (昭和52年1月~53年7月末)		26	民俗資料調査抄報 (11) 御田祭の祭具 (続)	大宮 守人
19	大和の民家 (11) 大和の民家 -構造-	長谷川晋平	27	第2次民俗資料収集を終えて	浦西 勉
19	大和の民俗行事 (15) 灌仏会	浦西 勉	27	三面スライドの映像製作にあたって -映像展示とソフト製作-	大宮 守人
19	物質文化 (1) 手焙試考 -所謂手焙形土器の位置づけによせて-	奥野 義雄	27	大和の民俗行事 (23) 大和の三大練供養会式 -当麻寺・矢田寺・久米寺-	奥野 義雄
19	(フィールドノート) 家財道具の変遷	芳井 敬郎	27	地方博物館を考える (11) 博物館と教育普及活動 -とくに展示活動から-	徳田 陽子
19	民俗資料調査抄報 (1) 檜木屋の諸刃の鉋刃	大宮 守人	28	特別テーマ展特集 特別テーマ展開催によせて	奥田 猛
19	民俗資料調査抄報 (2) 和傘製作技術 -竹材から傘骨づくりまで-	奥野 義雄	28	特別テーマ展特集 絵馬発生・出現にみる史料資料の再整理と課題	奥野 義雄
20	特別テーマ展によせて (1) 「寺院と年中行事」展について	川内 一郎	28	大和の民俗行事 (24) 大和の盆踊り	浦西 勉
20	特別テーマ展によせて (2) 寺院と年中行事	浦西 勉	28	大和の民家 (12) 旧岩本家住宅について	長谷川晋平
20	大和の民俗行事 (16) 蓮華会	奥野 義雄	28	民俗資料調査抄報 (12) 野神まつりの絵馬	奥野 義雄
20	民俗資料調査抄報 (3) 鍛冶屋の製作技術	芳井 敬郎	28	民俗資料調査抄報 (13) 藍染め	大宮 守人
21	地方博物館を考える (9) 地域博物館における情報コーナーの役割	小川 直之	29	第2回「民俗学カルチャーサロン」民俗コースを終えて	奥田 猛
21	物質文化 (2) 続・家財道具の変遷	芳井 敬郎	29	物質文化 (6) はきものII -奈良県立民俗博物館収蔵品紹介-	浦西 勉
21	大和の民俗行事 (17) 仏名会	浦西 勉	29	大和の民俗行事 (25) 亥の子祭りと「亥子」行事	奥野 義雄
21	(フィールドノート) 予祝儀礼としての年占と結鎖祭 -農村にみる占いと呪いをめぐる素描-	奥野 義雄	29	地方博物館を考える (12) 伝承技術と体験学習 -当館体験学習講座の現状-	大宮 守人
21	民俗資料調査抄報 (4) ザル製作技術	大宮 守人	29	民俗資料調査抄報 (14) 淡島神社の絵馬奉納	徳田 陽子
21	民俗資料調査抄報 (5) 大和のオコナイ	浦西 勉	30	テーマ展特集 「日々のくらしシリーズ薬と生活」によせて -薬筴を中心にして-	徳田 陽子
22	民俗博物館開館5周年を迎えて	川内 一郎			
22	常設展新企画コーナー 「生業を支えた職人」展の開設に伴って	大宮 守人			
22	春季テーマ展 「諸職-町の職人・村の職人-」	芳井 敬郎			
22	大和の民俗行事 (18) 節分会	奥野 義雄			
22	昭和54年度事業報告 (昭和54年4月1日~55年3月16日)	吉岡 豊			

30	(フィールドノート) 呪文瓦「唸々如律令」を求めて	奥野 義雄	37	民俗資料調査抄報 (22) 行者講 一桜井市 慈恩寺の行者講一	浦西 勉
30	大和の民俗行事 (26) 三月節供	浦西 勉	38	都市公園と民俗博物館の今後の課題 一緑豊かな公園にある博物館一	奥田 猛
30	昭和56年度事業報告 (昭和56年4月~57年3月まで)	松井 茂	38	大和の民俗行事 (34) 大和のカンジョウウカケの神事 一カンジョウウカケの紹介とその村落内での受容期の課題によせて一	奥野 義雄
30	寄贈民俗資料分類目録 (昭和56年3月~57年2月まで)		38	昭和58年度博物館事業報告	稲葉 安正
30	民俗資料調査抄報 (15) 木地師の椀つくりの用具	浦西 勉	38	寄贈民俗資料分類目録 (昭和58年3月~59年2月まで)	
31	公園・民家そして博物館への雑感 一入館者からのメッセージー 当館編		38	図書寄贈者目録 (昭和55年11月~58年12月まで)	
31	物質文化 (7) 屋根葺道具 (その1) 一とくに桤板葺の諸道具を中心に一	奥野 義雄	39	テーマ展紹介 大和のはたおり	大宮 守人
31	大和の民俗行事 (27) レンゾとオコモリ	浦西 勉	39	物質文化 (12) 蕨・畚織り用の箆について 一奈良県立民俗博物館収蔵品紹介一	徳田 陽子
31	民俗資料調査抄報 (16) 苧織み	大宮 守人	39	大和の民俗行事 (35) ハンゲショ (ハゲッショ)	浦西 勉
32	特別テーマ展特集 「奉懸絵馬と村のくらし」展によせて	奥田 猛	39	民俗資料調査抄報 (23) 三宅町石見のノガミまつり	横山 浩子
32	特別テーマ展特集 「奉懸絵馬と村のくらし」展の紹介 一とくに生業絵馬について一	徳田 陽子	39	博物館通信	浦西 勉
32	特別テーマ展特集 「奉懸絵馬と村のくらし」展から一とくに信仰と芸能にみる念仏踊から南無天踊へ	奥野 義雄	40	特別テーマ展特集 「大和の年中行事」展によせて	山本 實
32	大和の民俗行事 (28) 地藏盆 一地藏盆行事とその源初形態の検討へ一	奥野 義雄	40	特別テーマ展特集 オコナイ	浦西 勉
32	(フィールドノート) 宮座資料としての春日社文書 一視点へのアプローチ	大宮 守人	40	特別テーマ展特集 大和の御田植祭	大宮 守人
32	民俗資料調査抄報 (17) 子供の誕生に伴う絵馬奉懸の風習	徳田 陽子	40	特別テーマ展特集 虫送り	徳田 陽子
33	地方博物館を考える (13) 民俗博物館に望む物質文化 (8) 農具	平山敏治郎 大宮 守人	40	特別テーマ展特集 風祈祷	横山 浩子
33	大和の民俗行事 (29) 秋祭り 一曾爾村・門僕神社宮座の中世的様相へのアプローチ	奥野 義雄	40	特別テーマ展特集 雨乞い	奥野 義雄
33	(フィールドノート) 村落の神社成立考 (1) 一奈良県桜井市旧上ノ郷地区の場合一	浦西 勉	40	特別テーマ展特集 秋まつり	奥野 義雄
33	民俗資料調査抄報 (18) 産育習俗としての絵馬奉納	奥野 義雄	40	民俗公園短信	嶋田 神夫
34	「吉野の山村生産用具」の県指定によせて	浦西 勉	41	公園・民家そして博物館への雑感 (その2) 一入館者からのメッセージー 当館編	
34	年 占 一左義長と粥節供との関連性から一	奥野 義雄	41	物質文化 (13) 祭りの模擬農具 (用具) 一その2形態一	大宮 守人
34	昭和57年度事業報告 (昭和57年4月~58年3月まで)	稲葉 安正	41	大和の民俗行事 (36) カラスの餅	浦西 勉
34	寄贈民俗資料分類目録 (昭和57年3月~58年2月まで)		41	民俗資料調査抄報 (24) 雨乞い地藏について	奥野 義雄
34	民俗資料調査抄報 (19) 副業としての苧織について	徳田 陽子	41	博物館通信	浦西 勉
35	大和の民家 (13) 十津川の民家 一泉文・旧木村住宅について一	長谷川晋平	42	テーマ展紹介 テーマ展「女性とくらし」	横山 浩子
35	物質文化 (9) 当館収蔵機にみる改造痕について	大宮 守人	42	大和の民家 (14) 屋根について (その1)	長谷川晋平
35	大和の民俗行事 (30) 大峯山寺の戸開式	浦西 勉	42	(フィールドノート) 維新後の民俗信仰 (その1) 一宗教統制下の葬送・墓制を中心に一	奥野 義雄
35	民俗資料調査抄報 (20) 月ヶ瀬村桃香野における藁の活用	徳田 陽子	42	昭和59年度博物館事業報告	井ノ上 馨
36	特別テーマ展特集 山の神の信仰と修験道	平井 良朋	42	寄贈民俗資料分類目録 (昭和59年3月~60年2月まで)	
36	特別テーマ展特集 大和の山の信仰	浦西 勉	42	図書寄贈者目録 (昭和59年1月~60年1月まで)	
36	物質文化 (10) 胴ミノ 一奈良県立民俗博物館収蔵品紹介一	徳田 陽子	42	民俗資料調査抄報 (25) 秋の涅槃 (亥の子まつり)	徳田 陽子
36	大和の民俗行事 (32) 盆と百万遍念仏数珠繰り	奥野 義雄	42	民俗資料調査抄報 (26) 産育習俗 一お宮参りから初誕生日の祝いまで一	奥野 義雄
36	(フィールドノート) 大和の山の神信仰とその賽物	奥野 義雄	43	十津川村旭の村の生活伝承	林 宏
36	民俗資料調査抄報 (21) 西椎木の野神さん	大宮 守人	43	物質文化 (14) 譲り 一ハンチャを無形的側面からみる一	徳田 陽子
37	地方博物館を考える (14) 視聴覚と展示	喜谷 美宣	43	大和の民俗行事 (37) 夏祭り・祇園祭り	浦西 勉
37	物質文化 (11) 六齋念仏用具について 一館蔵品と西迎寺管理の六齋念仏太鼓を中心に一	奥野 義雄	43	民俗資料調査抄報 (27) 山添村室津の婚姻習俗	横山 浩子
37	大和の民俗行事 (33) 正月・元旦の行事	浦西 勉	43	民俗公園短信	嶋田 神夫
37	(フィールドノート) 副業としてのフゴ作りについて	徳田 陽子	44	特別テーマ展特集 「水と生活」展によせて	山本 實
37	(フィールドノート) マエビキとその職人	横山 浩子	44	特別テーマ展特集 布留川流域の水利慣行	浦西 勉
			44	特別テーマ展特集 溜池と水利慣行	徳田 陽子
			44	特別テーマ展特集 雨乞い	横山 浩子
			44	特別テーマ展特集 弁財天への信仰 一信仰の変遷と多様性について一	奥野 義雄
			44	民俗資料調査抄報 (28) 箸尾の弁天さん	奥野 義雄
			45	鼠米 (香米) のこと	岸田 定雄
			45	物質文化 (15) 六齋念仏用具について (その2)	奥野 義雄



45	大和の民家 (15) 屋根について (その2)	長谷川晋平	55	無形民俗資料のビデオ収録報告抄 (2) 藍染め	横山 浩子
45	民俗資料調査抄報 (29) 大和高田市曾大根の仕事着	徳田 陽子	55	無形民俗資料のビデオ収録報告抄 (3) トチモチづくり	浦西 勉
46	テーマ展「大和のくらし」	徳田 陽子	55	無形民俗資料のビデオ収録報告抄 (4) オエモチ (ヒガンバナの根の餅) つくり	浦西 勉
46	維新後の民俗信仰 (その2) 一宗教統制下の民俗行事・左義長を中心に一	奥野 義雄	55	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (5) 久米御縣神社の太鼓踊り絵馬について	鹿谷 勲
46	大和の民俗行事 (38) 春の彼岸とレンゾ	浦西 勉	55	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (6) 桜井市大福 吉田富夫氏寄贈資料の「桶」について	浦西 勉
46	昭和60年度博物館事業報告	井ノ上 馨	55	民俗公園短信 自生樹木の花	横村 光司
46	寄贈民俗資料分類目録 (昭和60年3月~61年2月まで)		56	無形民俗資料ビデオ収録調査抄 桶屋のカマ (鎌)	大宮 守人
46	図書寄贈者目録 (昭和60年2月~61年12月まで)		56	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (7) 菅原神社の秋祭り (火祭り) 一大字陀町田原一	細川富士子
46	民俗資料調査抄報 (30) 燈火用具	奥野 義雄	56	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (8) 牛耕についての聞き書き 一生駒市南田原一	浦西 勉
47-48	民俗公園・博物館の整備について	高原 邦夫	56	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (9) 天川村沖金の民俗聞き書き 短信 一民俗博物館へのおたより一十津川村 高滝の山の神まつり	浦西 勉
47-48	大型ビデオシステムの概要について	大宮 守人	57-58	特別テーマ展 紹介 「大和のはたおり用具」	横山 浩子
47-48	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展 ムラとイエのくらし」について	浦西 勉	57-58	涅槃講と涅槃会について	奥野 義雄
47-48	物質文化 (16) 仕事着の呼称について	徳田 陽子	57-58	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (10) 吉野郡十津川村西川筋の盆踊り (特に大踊り) について	浦西 勉
47-48	大和の民俗行事 (39) 夏越祓い (六月祓) 一茅輪と人形のかかわりについて一	奥野 義雄	57-58	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (11) 天理市遠田の数献當講 (いも食い講) について	森口 淳
47-48	民俗資料調査抄報 (31) 今井町の小祠祭祀とコミュニティ 一地蔵祭りと地蔵講について一	横山 浩子	57-58	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (12) 天理市南六条の宮座の記録	浦西 勉
47-48	民俗資料調査抄報 (32) 祖先供養について 一平群町福貴の場合一	奥野 義雄	57-58	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (13) 大和郡山市矢田の藁細工	徳田 陽子
49-50	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展」によせて 一奈良県のくらしと近代一	浦西 勉	57-58	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (14) 吉野郡十津川村内原のナレズシ作り	浦西 勉
49-50	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展」特集 イエのくらし・燈火	徳田 陽子	59	民具収集にご協力下さい	徳田 陽子
49-50	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展」特集 子供の世界 一子供のくらし・その成長一	大宮 守人	59	収蔵品展 村と家の祭りごと	奥野 義雄
49-50	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展」特集 ムラとイエの祖先まつり	横山 浩子	59	無形民俗資料ビデオ収録調査抄 秋祭りの中に見られる伝承技術 一宇陀郡大字陀町田原の秋祭り一	横山 浩子
49-50	昭和61年度博物館事業報告	奥野 義雄	59	無形民俗資料ビデオ収録調査抄 クルミ餅づくり	大宮 守人
49-50	寄贈民俗資料目録 (昭和61年3月~62年2月まで)		59	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (15) 奈良市米谷町の十九夜講とその関連資料	横山 浩子
49-50	図書寄贈者一覧 (昭和61年1月~62年2月まで)		60	収蔵品展「吉野のくらし」	
49-50	民俗公園短信 一松枯れのこゝろ一	横村 光司	60	吉野郡下市の町場の性格 (1)	浦西 勉
51	奈良県100年記念「明治・大正・昭和生資料展」と催しもの	浦西 勉	60	黒滝袴	徳田 陽子
51	照明具	大宮 守人	60	(研究ノート) 盃蘭盆における客棚習俗について	奥野 義雄
51	大和の民俗行事 (40) 子供とまつり	横山 浩子	60	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (16) 茅葺屋根とその伝承[1]	横山 浩子
51	奥吉野の民俗採集報告 二題	岸田 定雄	61	大和民俗公園 (宇陀・東山集落) 旧八重川家住宅一般公開	
51	民俗公園だより 水車小屋		61	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (17) 茅葺屋根とその伝承[2] 一茅葺の工程一	横山 浩子
52	ビデオ学習室の意義と映像資料収録業務 (ビデオ学習室の番組一覧表)	大宮 守人	61	吉野郡下市の町場の性格 (2)	浦西 勉
52	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (1) 奈良市中ノ川の宮座の年中行事	浦西 勉	62	収蔵品展 まつるこころとかたち 一祈願・鎮魂・報賽一	横山 浩子
52	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (2) 愛染さんのまつり	横山 浩子			
52	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (3) 桜井市多武峯の運搬方法 一山地の運搬一	徳田 陽子			
52	民俗公園だより 植物と民俗 一ふくらし一	横村 光司			
53-54	大和民俗公園及び県立民俗博物館				
53-54	公園区域の拡大について	横村 光司			
53-54	大和の民家 (16) 大和高原の民家 一旧松井家住宅について一	長谷川晋平			
53-54	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告一 (4) 吉野郡大淀町持尾の年中行事	浦西 勉			
53-54	民俗公園だより 植物と民俗 (2) トチノキとトチモチづくり	横村 光司			
55	無形民俗資料のビデオ収録報告抄 (1) チバ表作り (棕櫚の履物表)	横山 浩子			

62	(研究ノート) 生きみたまを祀る習俗	奥野 義雄	座一郷土をいかに教えるかー	徳田 陽子
63	博物館を考える データベース事始め (1)	大宮 守人	無形民俗資料映像収録事業 「玉味噌作り」	横山 浩子
63	民俗資料聞き書き短信 一民具と伝承に関する報告ー (18) 黒滝村赤滝の民俗 1.まつりを中心に 2.山の仕事、樽九師の仕事	浦西 勉	調査余録	
64	特別テーマ展 旅一巡礼と参詣一よせて	奥野 義雄	73 節分におけるオニノメツキの習俗について	奥野 義雄
64	(研究ノート) 紀伊半島中央山岳部吉野山地における山の神まつりの諸相 一山の神まつり残存資料の歴史的把握の試論一	浦西 勉	74 平成9年度特別テーマ展「大和川水辺の民俗一川・舟・くらしー」について	大宮 守人
65	収蔵品展「くらし絵と描かれた用具」について	奥野 義雄	74 初夏の食べ物ー田植えはじめと露俵ー	横山 浩子
65	奈良県立民俗博物館と大和民俗公園を見てー植物学の視点からー	北川 尚史	74 孟蘭盆習俗の迎え火と送り火についてー迎え火・送り火の習俗に用いられた焚き火材を中心にー	奥野 義雄
66	奈良県立民俗博物館20周年記念体験学習事業 手づくり稲作文化体験ーひとつぶのお米から始まる物語ー		75 収蔵品展 「日々のくらしー水をめぐってー」について	大宮 守人
66	(研究ノート) 卯杖と卯植の習俗について	奥野 義雄	75 教材研究「山の民俗」ー郷土をいかに教えるかー (平成9年度普及講座の報告)	浦西 勉
66	民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (19) 伝承技術調査・番傘作りー吉野町宮滝ー (その1)	横山 浩子	76 (研究ノート) 孟蘭盆習俗の迎え火と送り火について (続き) ー迎え火・送り火の習俗に用いられた焚き火材を中心にー	徳田 陽子
67	収蔵品展「葛城山麓の民具」について	浦西 勉	76 民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (24) 心意現象の「狐」の話、再びー奈良県月ヶ瀬村石打での調査事例からー	奥野 義雄
67	(研究ノート) 断想・削り花の習俗について 一山の神祭と正月行事の祭具として一	奥野 義雄	76 民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (25) 桜井市江包の糞についての覚書	徳田 陽子
67	民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (20) 1.孟蘭盆の一習俗としての墓会 2.門位牌の習俗について ー生駒郡安堵町域の調査事例からー	奥野 義雄	76 民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (26) 吉野郡野迫川村立里の民俗 ー狼と狐の伝承ー	浦西 勉
68	平成7年度 特別テーマ展 「大和がすりー郷土に育まれた染織ー」	横山 浩子	77 収蔵品展 磯城郡の民具「はかる・たがやす・まつる用具」展	浦西 勉
68	(研究ノート) 蝗の害を避けるまつりとまじない ー虫送りの習俗の展開をさぐるー	奥野 義雄	77 特別陳列 柳田国男の葉書について	
68	データベース事始め (2) ー稲作の用具、大から小までー	大宮 守人	77 データベース事始め (4) あかりの民具と展示	大宮 守人
69	収蔵品展 「衣生活をめぐる民具」について	横山 浩子	77 (研究ノート) 御戴餅についてー小児誕生日祝いの餅背負いと戴餅の接点を探るー	奥野 義雄
69	民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (21) 大淀町今木蔵王堂及び境内における石仏群に関する調査	浦西 勉	77 民俗資料の聞き書き短信 (27) オカリヤについて (桜井市倉橋のオカリヤについて)	浦西 勉
70	民俗資料伝承調査についてー幅広い奈良県の歴史像をめざしてー 1.民俗文化という資料とその性格	徳田 陽子	78 (研究ノート) 奈良県のイノコ行事考 (1) イノコの祭日の問題 (2) イノコのボタモチとクルミモチについて	浦西 勉
70	(研究ノート) 伝承し続けた「蘇民将来」呪符	奥野 義雄	78 (研究ノート) 吉野猿楽についての覚え書きー巴野大夫家の活動基盤ー	池田 淳
70	データベース事始め (3) ー『奈良盆地の水土史』よせてー	大宮 守人	78 民俗資料の聞き書き短信 (28) 苧績みの里再訪 ー特別展「奈良晒」の開催にむけて	横山 浩子
71	特別テーマ展「鬼の世界ー信仰・行事習俗に現れる鬼の諸相ー」	奥野 義雄	79 平成11年度 特別展 鬼・まじないの世界 ー鬼が鬼を制する諸相ー展	奥野 義雄
71	(研究ノート) 近世まじない習俗の伝承について ー『諸国風俗問状答』の二・三の事例を中心にしてー	奥野 義雄	79 (研究ノート) 御戴餅についてー小児誕生日祝いの餅背負いと戴餅の接点を探るー (その2)	奥野 義雄
71	民俗資料伝承調査についてー幅広い奈良県の歴史像をめざしてー 2.奈良県の地域民俗文化圏の想定	浦西 勉	79 民俗資料の聞き書き短信 (29) 下市町阿知賀瀬之上・光明寺蔵の当麻曼荼羅について	浦西 勉
72	収蔵品展 「くらし絵に描かれた生活用具ー運ぶ・食べる・住むー」	奥野 義雄	80 収蔵品展 「くらし絵と昔の用具ー遊ぶ・楽しむ・学ぶー」の展示紹介	奥野 義雄
72	民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (22) 鬼の伝承と修験道について ー生駒市鬼取町の伝承を中心にー	奥野 義雄	80 (収蔵品展にともなう調査) ただ一人の“紙芝居屋さん”の話	奥野 義雄
72	民俗資料聞き書き短信 一伝承と民具に関する報告ー (23) 宇陀郡菟田野町下平井・上平井の宵宮のまつりー神饌を中心にー	浦西 勉	80 民俗資料の聞き書き短信 (30) 山辺郡都祁村小倉・上深川・下深川の「オコナイ」	浦西 勉
73	民俗資料の教育現場活用への模索・普及講	浦西 勉	80 民俗資料の聞き書き短信 (31) 吉野郡大淀町薬水の宮座	浦西 勉
			81 データベース事始め (5) 退色防止用仮設置オートフェーダーの省エネ効果実験について	大宮 守人
			81 資料紹介 春日藤	横山 浩子
			81 民俗資料の聞き書き短信 (32) 宇陀郡榛原町山辺三・戒場の伝承 1.山辺三の盆行事 2.山辺三・戒場のサビラケ (田植始め)	浦西 勉

81	普及講座 「茶の民俗」 実施して - 博物館学芸員実習生の「日誌」から-	浦西 勉 徳田 陽子	92-93	(フィールドノート) 吉野における木地屋の終焉をめぐる	森本 仙介
82	平成12年度特別展紹介 「奈良晒-近世南都を支えた布-	横山 浩子	92-93	(フィールドノート) 奈良市疋田町から収集した民具について-牛耕を中心に-	岩宮 隆司
82	再び、孟蘭盆における客棚習俗について (その1)	奥野 義雄	92-93	民俗博物館の催し・花だより	
82	データベース事始め (6) 新公開用映像資料「和傘づくり」「提灯づくり」「葛粉づくり」の紹介	大宮 守人	94	(特別展特集1) 民具が語る暮らしの変遷 - 資料収集30年の軌跡-	
83	開館25周年を迎えて  創設25周年に寄せて	平山敏治郎	94	(特別展特集2) 「奈良盆地の農業生産・生活用具」-コレクション化に向けて-	岩宮 隆司
83	開館25周年を迎えて  創設25周年に寄せて	木村 博一	94	(特別展特集3) 県指定有形民俗文化財「吉野の山村生産用具」-さらなる充実をめざして-	森本 仙介
83	開館25周年展 暮らしの風景 -写真資料による郷土の民俗25年-	大宮 守人	94	ならみんぱく春夏秋冬 -最近の活動から-	
83	(研究ノート) 孟蘭盆における精霊を迎え・送る伝承習俗について -通常の孟蘭盆習俗と違った伝承習俗のある山添村峰寺と都祁村荻の場合を中心に-	奥野 義雄	94	新作映像資料の紹介 吉野における木地製作 -紀州黒江系轆轤師の伝承技術-	森本 仙介
84	収蔵品展紹介  暮らしの中の繊維工芸	横山 浩子	95	特別講演会の記録 民俗博物館収集民具から奈良の古代を探る	河野 通明
84	データベース事始め (7) 田原本町鍵の避難用川船 -新収蔵資料より-	大宮 守人	95	ならみんぱく春夏秋冬 -最近の活動から-	
84	(研究ノート) 卯杖・卯槌と削り懸けについて - 「諸国風俗問答」に現れた二つの習俗の共通項-	奥野 義雄	96	わが家の「茶がゆ」	西上 宏
84	民俗資料の聞き書き短信 (33) 大宇陀町平尾の年中行事	浦西 勉	96	大和の茶粥 (1)	鹿谷 勲
85	平成13年度特別展 「なら墨と筆の伝承文化」展によせて	大宮 守人	96	生活用具の中の茶臼 -当館の収蔵資料から-	横山 浩子
85	民俗資料の聞き書き短信 (34) マキハダ -県内における栓皮繊維利用の一例-	横山 浩子	96	トンドさんの蛸と年中行事 (奈良市六条町古宮会所)	大宮 守人
85	民俗資料の聞き書き短信 (35) 小麦餅	浦西 勉	96	みんぱく春夏秋冬	
86	収蔵品展 奈良県内の古農具 (大和の農村と農業技術史) 風を生みだした箱-唐箕-	浦西 勉	97	鍛冶屋の火が消えた -奈良県吉野郡吉野町阪本鉄工所の調査記録-	角南聡一郎
86	(研究ノート) 卯杖・卯槌と削り懸けについて - 「諸国風俗問答」に現れた二つの習俗の共通項- (続き)	奥野 義雄	97	(特別展紹介) 暮らしを支えた手わざ -鍛冶屋・檜木屋-	大宮 守人
87	特別展「お金-近代のお金とくらし-商う・祈る・貯める-」について	奥野 義雄	97	奈良県内の畜力用除草機	岩宮 隆司
87	民俗資料の聞き書き短信 (36) 垣結と垣結の餅づくり-斑鳩町龍田北庄春日講の行事-	大宮 守人	97	季節とたべもの ドヤモチ・コゴメモチ	横山 浩子
88	収蔵品展 「祭りと供え物-祭礼行事の祭具と神仏への供え物の諸相-」について	奥野 義雄	97	民俗公園だより 大和民俗公園のあらまし	川瀬 浩
88	新作映像資料の紹介 杉皮と楡皮の利用	横山 浩子	98	吉野郡上北山村のトウキビボウキ -製作工程の記録報告-	高嶋 侑子
88	民俗資料の聞き書き短信 (37) 黒滝村の民俗 ①樽丸の話 ②樽丸師・亀井正三さんの話 ③上中戸村での聞き書き ④粟飯谷村・正西寺の永代経 ⑤口役銀の木板	浦西 勉	98	大和の茶粥 (2)	白川 朋子
89	(研究ノート) 再び孟蘭盆における客棚習俗について (その1) 続き	奥野 義雄	98	(企画展紹介) たがやす -牛とくらしした日々-	鹿谷 勲
89	(研究ノート) 断想・明治政府の「府県禁令」にみる牛肉の販売にかかわる世相	奥野 義雄	98	民俗公園だより 植栽された樹木	岩宮 隆司
89	(研究ノート) 斑鳩町内村落の祭礼-服部と北庄の場合-	大宮 守人	98	みんぱく春夏秋冬 平成18年度の活動報告	川瀬 浩
89	(新作映像資料の紹介) イッカケづくり	横山 浩子	99	マキハダづくりを追って (上)	福島 俊弘
89	民俗資料の聞き書き短信 (38) 都祁村友田の製茶に関する聞き書き	浦西 勉	99	国指定重要有形民俗文化財 「吉野林業用具と林産加工用具」の概略	森本 仙介
90-91	特別展の紹介 大和もめん	横山 浩子	99	県指定有形民俗文化財 「奈良県の牛耕用具」の概略	岩宮 隆司
90-91	大和もめん展における「見て・聞いて・触れて・ためして」展示を理解するための試み (特別講演会) 近世大和の農民の知恵-綿作と「まわし・ならし」-	横山 浩子	99	大阪の資産家に救われ奈良の農家に来た牛	岩宮 隆司
90-91	民俗博物館の新企画展 特別陳列 「四季おりおりの民具」	徳永 光俊	99	民俗公園だより 自生する樹木	川瀬 浩
			100	国際博物館の日記念講演会要旨 「時空を越えて、歴史的民家保存の意義と方法-大和民俗公園の未来を考える-」	窪寺 茂
			100	マキハダづくりを追って (下)	福島 俊弘
			100	民俗博物館だより目録 (1~100号)	
			100	みんぱく春夏秋冬 -平成19年度の活動他-	

[表紙写真解説]

当民俗博物館の西約500メートルの地にある矢田座久志玉比古神社では、1月8日に綱掛けが行われる。三座ある同社の宮座のうち、北座が4本の綱を作り、巻き固めて楼門の左右に据えたものを宮司(加藤善孝氏)が祓い清めているところ。

# みんなく春夏秋冬

## 平成19年度の活動報告

◎みんなく春夏秋冬 —平成19年度の活動—

### 【展示】

- ◎4月28日～8月26日 シリーズ展民具は語るⅢ  
「人が動くモノが動く—交通・運輸・通信の用具—」
- ◎9月22日～11月25日 特別展重要有形民俗文化財指定  
記念「木を育て、山に生きる—吉野・山林利用の民俗  
誌—」
- ◎12月8日～2月11日 シリーズ展民具は語るⅣ  
「あかりの用具と暖房具」
- ◎3月1日～4月6日 季節展  
「ひなまつり—人形たちの宴—」

### 【コーナー展示】

館内企画展示場入口や通路の展示ケースを利用して、  
季節や展示に関わるコーナー展示を実施。

- ◎4月～9月「奈良みやげ」
- ◎5月～7月「下駄—新収蔵品のご紹介—」
- ◎7月～9月「私達には忘れてはならない夏がありま  
す—戦時生活資料—」
- ◎9月～12月「綿から綿へ、綿から糸へ」
- ◎9月～12月「手織り木綿布—新収蔵品のご紹介—」
- ◎12月～1月「しめなわいろいろ」
- ◎12月「おん祭」
- ◎1月「大和万歳」◎1月「お正月」
- ◎2月～4月「裁縫用具」
- ◎2月～3月「東大寺修二会」
- ◎2月「煙草盆と煙草入れ」
- ◎7月～9月 新収蔵品特別陳列「奈良茶碗」

### 【催し物】

- ・4月22日(日) 民俗映像上映会「手縫いの靴づくり」  
「履物表づくり—チバ表—」(当館制作映像記録公開)
- ・6月3日(日) 国際博物館の日記念講演会「来訪神から  
みた住まいの構造」(講師関西大学教授森隆男氏)
- ・7月29日(日) 普及講座なら民博の活用術「民具の力  
一回想法とはⅡ—」(講師永田操氏)  
昨年に引き続き、旧白井家に夏の民具を並べ、夏の暮  
らしをテーマに、回想法の実演。
- ・8月19日(日) 民俗映像上映会「八島・東安堵・東佐  
味の六斎念仏」  
県指定無形民俗文化財に指定されている県内の三つの  
六斎念仏の映像記録を併せて上映。
- ・9月30日(日) 実演「大塔の杓子作り」  
特別展の一環として五條市大塔町惣谷の新子薫氏とそ  
のお孫さんの光氏に入口ホール特設会場で栗の木を用  
いた杓子作りを実演。
- ・10月21日(日) 実演「下市の桶作り」  
同じく下市町の松谷一二三氏が桶作りを実演。
- ・10月28日(日) 特別講演会「吉野林業と木工技術」  
(龍谷大学教授須藤護氏)
- ・11月11日(日)、11月18日(日) 木工クラフト教室  
県北部農林事務所及び南部農林事務所の協力を得て、  
ペンダントなどを作るクラフト教室を開催。
- ・12月16日(日) 体験学習「しめなわ作り」  
恒例の年末しめなわ作りを地元の吉岡秀信氏のご指導  
で実施。
- ・2月17日(日) 民俗映像上映会「秦峰一がとらえた大  
和の風土とはたらく人々③」  
宇陀市室生区染田の農鍛冶業福井政明氏の活動を記録

した秦峰一氏(大和郡山市在住)の新作記録映像「鈍  
の音」や「砂かけまつり」を上映。

### 【博物館実習】

- ・学校教育の場に博物館資料を生かす試みとして、高校  
生の博物館実習を受け入れ。  
5月26日1名(列品解説)、  
7月25日～27日8名(解説及び農具の整理)。ともに  
法隆寺国際高校歴史文化コースの生徒(1年3人男、  
2年3人男、3年3人女)で、うち7名は「まほろば  
創生・なら教育特区」学校外の学習として単位認定を  
受けた。
- ・また同校の6月5日(野神祭現地見学)及び11月1日  
(六斎念仏)の民俗学特別講義には博物館から講師派  
遣。
- ・県内大学の大学生及び県内出身の大学生(15大学32名、  
男4名・女28名)を対象に、5月26日にガイダンスを  
行い、5月29日～6月2日、8月7日～11日、10月23  
日～27日の3期に分けて実施。

### 【その他】

- ・11月14日 ACCU・ユネスコ青年交流信託基金事業「文  
化遺産保護青年指導者研修・交流プログラム」による  
アジア太平洋地域の文化財保護に関わる青年指導者研  
修生10名を迎え、奈良県の無形遺産保護の概要の講義  
と特別展の解説、さらに民家でのカマド炊きごはんで  
おにぎり体験。(3年目)

### 【公園】

ひょうたん栽培・ささゆり栽培と展示(6/9～6/26)  
梅の木ファミリー 4/15、6/10、8/19草刈り、6/17摘果、  
9/30 10/14(お別れ会)

### 【平成21年1月以降の予定】

- ◎シリーズ展「家具・調度」(12/13～2/1)
- ◎季節展「ひなまつり」(2/28～4/5)
- ◎民俗映像上映会「大和の自然と風土」2/15、13時30分～
- ◎「体験 南阿田の流し雛づくり」3/1、13時30分～16  
時(事前申込)
- ◎「民家で味わう雛祭り体験とお茶席」旧白井家での雛  
祭り(3/3～3/8)、同所でのお茶席(3/8、10時～14時)  
※詳しくは民俗博物館へ。

### 【職員異動】

平成20年3月31日付け 森岡康憲館長・退職  
同 年4月1日付け 大窪秀樹館長・新任  
同 年6月30日付け 岩宮隆司主任学芸員・退職  
森本仙介主任学芸員・退職  
同 年10月1日付け 吉川賀章総務課係長異動  
山崎好友総務課係長新任

### 奈良県立民俗博物館だより Vol.35 NO.1 (通巻100号)

2008(平成20)年12月25日発行

編集発行 奈良県立民俗博物館

〒639-1058 大和郡山市矢田町545番地

TEL 0743-53-3171 / FAX 0743-53-3173

印刷 共同精版印刷株式会社

〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6

### 奈良県立民俗博物館

開館時間：午前9時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)

※民俗公園内の民家集落は午後4時まで

休館日：月曜日(休日にあたる場合は翌日に振替)

年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料：大人200円 大・高生150円 中・小生70円

※20名以上、団体割引あり

※65才以上、身障者と付添1名は無料

交通案内：近鉄郡山駅→奈良交通バス①のりば→「矢田東山」下車  
→北へ徒歩7分/公園・博物館利用者専用駐車場あり